

業務中事故報告書

1. 発注（報告）機関	名古屋 支社 ■■■ 保全・サービスセンター (立会者) —						
2. 業 務 名	2023年度 東名阪自動車道 ■■■ 管内維持修繕業務						
3. 発 生 日 時	令和5年 9月 5日 (火曜日) 午前 10時 00分頃 (天候 晴 )						
4. 発 生 場 所	東名阪自動車道 (地先, IC間, 測点など) 下り線 KP47.8 付近(側道)						
5. 業務の概要							
(1) グループ会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋株 (契約者所在地) 愛知県名古屋市中区錦 1-18-22 名古屋 AT ビル 9F						
(2) 発 注 区 分	本社, (支社) 保全・サービスセンター						
(3) 工 期	2023年4月1日から 2024年3月31日まで (進捗率-%)						
(4) 請 負 金 額	- 円						
6. 事故の状況	東名阪自動車道 下り線 KP47.8 付近(側道)で、草刈り作業中に、作業員がハチに刺されたもの。 (蜂の種類：スズメバチ) ポイズンリムーバーにて処置済みで意識がはっきりしているが、念のため病院へ搬送。 事象発生後に事象現場の作業は中止。蜂の巣は9/6に駆除を予定。						
7. 被災状況 (公衆損害事故については、その第一原因者についても記入すること。)							
公衆, 作業員 などの区別	(ふりがな) 氏 名	性別 年齢	職種 経歴	当現場 の経歴	被災者の住所	負傷程度	
作業員		■	■■■	■■■	■■■■■	蜂刺され 顔1箇所 右手2箇所	
(物損状況)							
当方：なし							
相手方：なし							
8. 事故に対する所見 (原因考察, 警察・労基署の所見など)							
_____							
_____							
9. 事故発生後の処置							
(業務現場)	10:00頃 事象発生(■■■■ 病院へ搬送)						
	10:30頃 現場代理人より■■■■ (保) 保全計画へ連絡						
	11:30頃 診察終了(痛みがあれば安静とのこと)						
	16:00頃 安全大会 実施						
_____							
_____							
10. 取材及び報道	なし						
_____							
(本業務の本件までの事故状況) _____ 0件, うち死亡 _____ 0件, 負傷 _____ 0件, 物損その他 _____ 2件							

様式第6号の2

1.1. 事故原因の詳細 (後日提出)

発生原因	人的要素		物的要素		管理的要素	
	・現場全体を見渡しての目視確認が困難な状況で、蜂等の害虫を発見できなかったため、蜂等の害虫がいないと思い、作業を開始した。					
	原因評価 (◎ ○ △)	◎	原因評価 (◎ ○ △)		原因評価 (◎ ○ △)	

※ 原因評価：事故との関連性 重大=◎ 中程度=○ 軽度=△



【人的要素に基づくヒューマンエラー要因】

※ 事故原因と考えられる人的要素に○印をつける。(複数可)

H 1	無知 未熟練 経験不足 教育不足
H 2	危険軽視 慣れ 悪習慣 集団欠陥
H 3	近道本能 省略本能 能率本能
H 4	場面行動本能 (1点に集中して周囲の状況が見えなかった)
H 5	緊急時のあわて パニック状態
H 6	外的要因錯覚 (見間違い、聞き違い等) 内的要因錯覚 (思い込み等)
H 7	中高年齢者の機能低下
H 8	疾病 疲労 体質 急性中毒等
H 9	単調反復動作による意識レベルの低下

1.2. 事故対策

再発防止対策	人的要素	物的要素	管理的要素
	・作業範囲に蜂などの害虫がいる可能性を考慮して、作業を進める。具体策として、事前確認がしにくく、草刈りをしないと先が見えない状況においては、殺虫剤を携帯した作業員とペアになって作業する。		

※ 対策内容の説明資料を添付すること。

## 【位置図】



## 【状況写真】



## 【現地状況】

事象があった作業現場は、間地ブロック上立入防止柵が設置されており、事前に作業現場の確認をするのが困難である状況であった。

## 【原因】

作業開始する事前に蜂など害虫が、発生しないかを事前に調査確認することとしていた。  
現場の状況は、草繁茂(h=2.0)がひどく、間地ブロック上に立入防止柵が設置されており、フェンス外から現場全体を見渡しての目視確認が困難な状況であった。

トリマー(L=2.0m)での草刈り時に、根から一遍に刈り込むのではなく、慎重に草に触れながら作業をしていたが、確認しきれずに蜂巣より蜂が飛来してしまい、刺されてしまった。

## 【対策】

■ 事前確認がしにくく、草繁茂がひどく草刈しないと先が見えない状況化においては、一人作業ではなく殺虫剤を携帯した見張員が付き、飛来する蜂に備える。

■ 先が見えない草刈作業時はより一層の慎重な作業とする。

■ 今回の事象を安全大会にて各作業責任者へ周知するとともに、当社の取り決めた蜂対策を実施できているか、安全大会にて確認し、引き続き継続するよう周知

下記 当社蜂対策

・作業前に作業範囲に蜂などの害虫が発生していないかを調査する。

・蜂抗体検査を実施して、自分がどのレベルか確認する。(抗体検査実施済)

※リスクの見える化するため、ヘルメットに蜂抗体ステッカーの貼り付け。

クラス3以上はアナフィラキシーショックを引き起こすことがある為、各自エピペンを携帯する。

・蜂対策グッズを携帯する。(ポイズンリムーバー、蜂用の殺虫スプレー)

**上記の対策を各班実施していたことを安全大会にて確認した。**

## 【蜂対策グッズ】



蜂用の殺虫剤

